

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. ウィズコロナにおける「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）
 - (1) ウィズコロナにおける、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。
 - ア 校内の『授業力改善委員会』等による持続的な授業改善を推進する。
 - ※「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和7年度までに85%以上にする（R2 78%、R3 84%、R4 82%）。
 - ※ 生徒の授業アンケート結果で3.35以上を維持する（R2 1回目①3.32、2回目②3.33、R3 ①3.37、②3.38 R4 ①3.45、②3.47）
 - イ 『主体的・対話的で深い学び』の実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。
 - ※令和7年度まで90%以上の教員が定期的にICTを活用した授業を実施することを維持する（R2 93%、R3 92%、R4 91%）
 - ※令和7年度までに90%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（R2 91%、R3 91%、R4 88%）
 - ※令和7年度までに65%以上の生徒が1人1台端末を効果的に活用している授業が多いことを実感できるようにする（R4 63%）
 - ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。
 - ※「授業の予習、復習は『できている』『まずできている』を令和7年度に60%以上にする（R2 53%、R3 56%、R4 52%）
 - ※「授業の予習、復習は『できていない』を令和7年度に5%以下にする（R2 8%、R3 9%、R4 9%）
 - エ 新学習指導要領における新カリキュラムと観点別学習評価を、令和4年度での取組みを踏まえ、令和5年度新入生には、より安定して実施できるようにする。
 - (2) ウィズコロナにおけるICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応
 - ア ICT機能を活用して、学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。
 - イ GIGAスクール構想における1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。
3. ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望進路の実現
 - (1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。
 - ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認めあい共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。
 - ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和7年度までに90%以上にする（R2 87%、R3 90%、R4 88%）
 - ※「牧野高校の人権教育は、適切に行われている」の教員の肯定的回答を令和7年度までに90%以上にする（R2 81%、R3 90%、R4 84%）。
 - ※「牧野高校は、人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和7年度まで85%以上を維持する（R2 86%、R3 86%、R4 89%）。
 - (2) ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜くため、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割、使命を意識させ、希望の進路実現を図る。
 - ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持しつつ、学校行事、生徒会行事については、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で可能なものに見直しをしていく。
 - ※体育祭や文化祭、修学旅行等について、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で可能なものになるよう必要な見直しや修正、変更を検討、実施する。
 - ※「部活動は活発である」への生徒の「よくあてはまる」の回答を令和7年度に70%以上にする（R2 63%、R3 66%、R4 68%）。
 - ※「部活動と学習の両立ができていく」の生徒の肯定的回答を令和7年度には80%以上をめざす（R2 73%、R3 77%、R4 74%）。
 - イ 生徒に、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。
 - ※ウィズコロナで可能な、進路講演会やイベントを行うとともに、外部講師による講演等の計画、実施を模索する。
 - ※「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和7年度に85%以上にする（R2 80%、R3 85%、R4 78%）。
 - ※「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を令和7年度までに90%以上にする（R2 89%、R3 90%、R4 88%）。
 - ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。
 - ※学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。
 - エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。
 - ※進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を図る。
 - ※令和7年度までに、大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（R2 70%、R3 74%、R4 63%）にするとともに、そのうち5教科型（情報Iは含まない）の出願者を50%以上（R2 32%、R3 29%、R4 25%）にすることをめざす。
 - ※令和7年度までに、国公立大学の現役受験者を卒業見込者の30%以上（R2 12%、R3 18%、R4 10%）にして、現役合格者を卒業見込者の10%以上（R2 2%、R3 7%、R4 5%）をめざす。
 - ※令和7年度までに国公立大学と同志社大学の合計の現役進学者を卒業者数の15%以上にする（R2 8%、R3 15%、R4 14%）。
 - ※令和7年度まで国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業見込者の50%以上を維持する（R2 60%（211名/353名）、R3 72%（225名/313名）、R4 65%（204/313名））
4. ウィズコロナにおける教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - (1) ウィズコロナにおいて、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分応えられる資質を養成する。
 - ア ウィズコロナにおいて可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。
 - ※「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を令和7年度までに90%にする（R2 72%、R3 88%、R4 87%）。
 - ※「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答を令和7年度までに85%以上にする（R2 78%、R3 82%、R4 82%）
 - (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| | |
|----------------------------|--------------|
| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
| | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R 4年度値] | 自己評価 |
|--|---|--|---|------|
| 1. ウィズコロナにおける「確かな学力」の育成と授業改善 | <p>(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業力改善委員会』による持続的な授業改善の推進</p> <p>イ ICTを活用した授業推進</p> <p>ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導</p> <p>エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの定着</p> | <p>(1) ウィズコロナにおける新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。</p> <p>ア 『授業力改善委員会』で持続的な授業改善を推進する。また先生方による授業観察期間を設け、授業改善に資するようにする。</p> <p>イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTと1人1台端末を活用した授業等の実施機会を拡大、推進する。</p> <p>ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけと幅広く多くの教科を学習することの大切さを様々な機会を通して指導する。</p> <p>エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと観点別学習評価を1・2年生で安定して実施できるようにする。</p> | <p>ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を83%以上にする【82%】。</p> <p>・生徒の授業アンケート結果で3.35以上を維持する【①3.45、②3.47】。</p> <p>イ・ICTと1人1台端末を活用する授業を行う教員が90%以上を維持する【91%】。</p> <p>ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』を55%以上【52%】、『できていない』を8%以下にする【9%】。</p> <p>エ・観点別学習評価を1・2年生で完全実施する。</p> | |
| 2. 想対応とGIGA活用授業の推進 | <p>(1) コロナ感染者等の学習補完とGIGAスクール推進 ア コロナ感染者等学習補完 イ GIGAスクール構想推進</p> | <p>(1) ICT機器の活用で学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。</p> <p>ア ICT機能を活用して学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を充実する。</p> <p>イ 1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。</p> | <p>(1) ア・ICT機器やネットワークを活用した授業が多いと実感する生徒が90%以上にする【88%】</p> <p>・「牧野高校は1人1台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答を63%以上にする【63%】。</p> | |
| 3. ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜く、生徒の豊かたたくましい人間性を育成するための教育機 | <p>(1) 多様性、共生の意識醸成 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員の人権意識醸成の機会を作っていく。</p> <p>(2) 生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを維持しつつコロナ下での行事等の見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実。 ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の3要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望を進路実現させるための進路指導体制の充実</p> | <p>(1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。</p> <p>ア コロナ偏見を許さず、多様性を認め合い共生するための人権教育、人権意識醸成の機会を生徒は各学年で年間2回以上、教職員も年間2回以上行うようにする。</p> <p>(2) ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。</p> <p>ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で可能なものに見直しをしつつコロナ前の状態に戻していく。</p> <p>イ ウィズコロナ、ポストコロナの社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。</p> | <p>(1) ア・「命の大切さ社会のルールについて、学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を90%以上にする【88%】。</p> <p>・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答85%以上にする【84%】。</p> <p>・人権教育を生徒は各学年で年2回、教職員も年2回行う【1年3回、2年2回、3年3回、教職員2回】。</p> <p>(2) ア・ウィズコロナにおける体育祭、文化祭は府の方針に基づき実施する。</p> <p>・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答を68%以上とする【68%】。</p> <p>・「部活動と学習の両立ができてきている」への生徒の肯定的回答を75%以上にする【74%】。</p> <p>イ・進路に関する講演会等を各学年で年2回以上実施する【1年4回、2年3回、3年2回】。</p> <p>・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を80%以上にする【78%】</p> <p>・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の</p> | |

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| | | <p>ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。</p> <p>エ 入学から卒業までの全ての教科をしっかり学び、学力をつけて、進路指導部を中心に生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。</p> | <p>生徒の肯定的回答を90%以上にする【88%】</p> <p>ウ「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。</p> <p>エ・定期的に全国比較での模試を行い学習の定着度や到達度を計測して向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込者の70%以上【63%】、内5教科型の出願者を30%以上【25%】にする。 ・国公立大学の現役受験者を卒業見込者の20%以上【10%】、内現役合格者を卒業見込者の5%以上【5%】とする。 ・国公立大学と同志社大学の現役進学者を卒業生の15%以上【14%】にする。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者を卒業生の50%以上【66%】にする。 | |
| <p>4. ウイズコロナにおける教職員研修での教職員の長時間勤務の削減</p> | <p>(1) 教職員の資質向上</p> <p>ア 相談能力養成のための教職員研修の充実</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員長時間勤務の削減</p> <p>ア「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を削減する。</p> | <p>(1) ウイズコロナにおいて、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に十分に答えられる資質を養成する。</p> <p>ア ウイズコロナで可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に答えられる資質を養成する。</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減</p> <p>ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議にも応用し、会議時間削減や、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化等で超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等も検討する。 ・新たな実効性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務削減を図る。 | <p>(1) 教職員研修の充実</p> <p>ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答88%以上をめざす【87%】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答83%以上をめざす【82%】。 <p>(2) 教職員の長時間勤務削減</p> <p>ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を削減するとともに、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%削減をめざす【R4：31時間28分】</p> | |